

1 教室環境①「場の構造化」

構造化とは、「いつ」「どこで」「何を」「どのように」行動すればいいのかが分かりやすくするために、目に見える形で提示することをいいます。そうすることで、児童生徒が迷わずに自発的に教室での作業に取り組むことが期待できます。

教室での構造化には、①見ただけで分かるように明瞭に表示する、②空間を目的別に仕切る、③合理的に物を配置するなどの方策があります。

1 「見ただけで分かる明瞭な表示」「合理的な物の配置」

(1) 登校後の「提出箱」と「表示」

朝、児童が教室へ入った時に、「何を、どこへ」提出するのか、「業前の活動は何か」など一目で分かるように表示します。

①提出物は、児童の目に触れやすい教卓の上に表示をした箱を用意します(図1-1)

②業前の活動(朝自習、朝会、読書タイム等)は、黒板に掲示します。

こうすることで、宿題を出す際に黒板の掲示に気づきやすく、児童の動きにも無駄がなくなり、合理的といえます(図1-2)。

仮に提出箱や掲示物が目に入らなくても、周りの児童の動線が同じため、自分から気づき

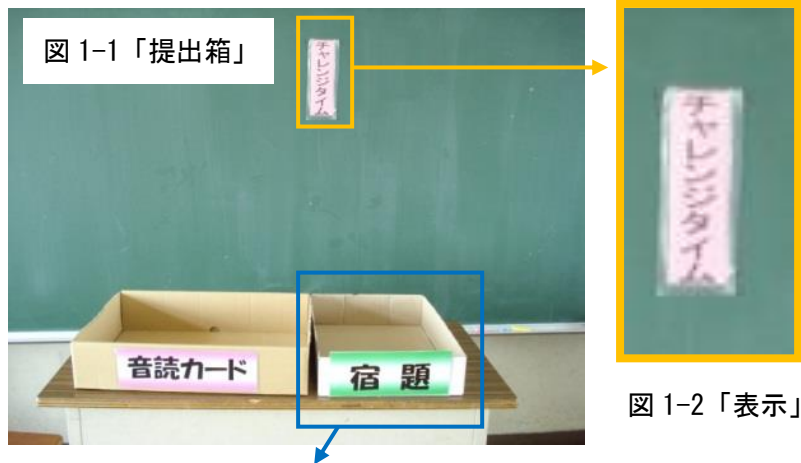


図 1-2「表示」



箱の中に仕切りを作り名簿番号ごとに集めておくと、未提出の児童の確認もスムーズに行うことができます(図1-3)。

一つ一つ指示を出さなくても子供が自分で判断して行動できる!

教師にとっても児童生徒と挨拶を交わしたり話ができたりするなど、有意義に時間を使えるため、合理的です!



(2) 写真で示す食器の収納の仕方

「皿」「おわん」など言葉によるラベル表示の他に、写真で収納の仕方が掲示してある。



図 1-4 「食器の収納の仕方」

(3) 道具の整理整頓・管理

技能教科では、様々な工具を使用します。使いやすく、管理しやすいように収納にも工夫が必要です。そうすることによって、片づけが苦手な生徒への対応ができ、また、片づけ時間の短縮にもなり、作業する時間の確保につながります（図 1-4）。



図 1-5 「整理された工具箱」



図 1-6 「使いやすい半透明」

＜ポイント＞

- ①工具は班ごとに1つの工具箱に収める。
- ②班の人数に適した数量を用意する。
- ③各工具を工具箱のどこに収めればいいのか分かるように「はめ込み式」にする（図 1-5）。
- ④中が見える半透明でプラスチック製の工具箱（積んでも活用しやすい）（図 1-6）。

＜ユニバーサルデザインの視点＞

「③視覚や触覚に訴える教材・教具が準備されている授業」

→場と目的、道具と行動等の対応を明確にすることで、「何をすればいいのか」視覚的・直感的に把握しやすくなります。表示や説明を加えるなどに加えて、「場をわかりやすく構造化」する工夫が求められます。

2 目的別に仕切られた空間 ～木工室のレイアウトの工夫～

快適な学習空間は、生徒たちの安全性と学習能率を上げるのにとっても大切なことです。狭くて「作業しにくい」「危ない」などのトラブルがないように、教室のレイアウトに工夫が必要です。

そこで、のこぎりを使用する授業では、教室の前半分をのこぎりの作業場所、後ろ半分を生徒が座る工作机にしました（図1-7）。

作業場所には、工作椅子を各班2個ずつ用意し、各班の作業する位置を指定しました。さらに、のこぎり作業している生徒の向きを全員黒板の方を向くようにしました（図1-8）。

作業場所の確保ができ、また安全に安心して作業ができます。清掃もスムーズにきれい早く終わることが出来ます。

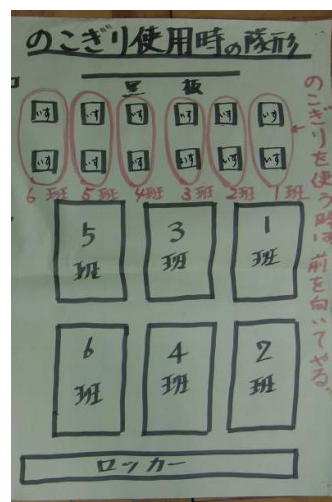


図1-7「のこぎりは教室の前半分」

＜効果＞

① 作業の**安全性**

② " **合理性**

- ・活動しやすく円滑
- ・時間短縮



図1-8「のこぎり作業の様子」

＜特別な教育的支援を必要とする児童生徒への効果＞

場の構造化は、「**自閉症のある児童生徒への支援**」としてよく用いられる手法です。

自閉症のある児童生徒は、耳から入る言葉による指示や説明よりも、視覚的な情報のほうが理解しやすいことが知られています。また、その都度やり方が変わったり、その場の状況に応じて柔軟に対応したりすることが苦手です。

そのため、場所や道具を手掛かりに、この時には何を求められているのか一目瞭然に示すこと、その方法やルールを一貫して活用することが有効な支援となります。

1 教室のレイアウト

場の構造化によって、環境の変化が苦手な児童生徒にも、決まった位置や置き場が明確に分かり、安心感が得られます。そのためには、思い切った構造化も必要です。

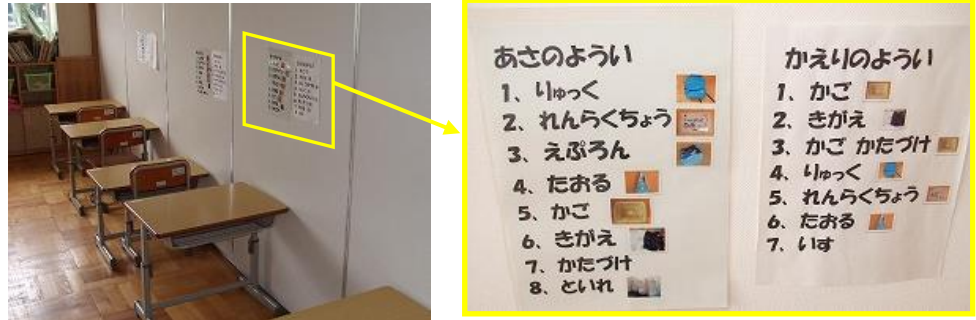


図 1-9 「壁に並べた机の配置」

机の配置も教卓と向かい合わせではなく、あえて壁に付けました。壁面掲示を利用し、活動の流れが分かるようにするための工夫です。



図 1-10 「目的別にレイアウトした教室」

- ・**教室の前面**：黒板の前に椅子を扇形に並べます。朝の会・帰りの会に使います。椅子を並べる位置を示すテープが目印です。
- ・**教室の中央**：長テーブルを配置。作業や給食など机上を使用する時に使います。
- ・**教室の後面**：窓際に後ろ向きに机と椅子が並びます。自立活動の個別課題を学習する場所です。自分で課題を用意し、取り組みます。

2 立ち位置を明確に示す

立ち位置を明確にするために「足型」を置きました（図 1-11）。立つ位置だけでなく、友だちとの間隔も示すことができます。

縦並びにすると、「順番」を学習する教材として利用できます。



図 1-11 「立ち位置を示す足型」